

林業地域に残された広葉樹林の役割

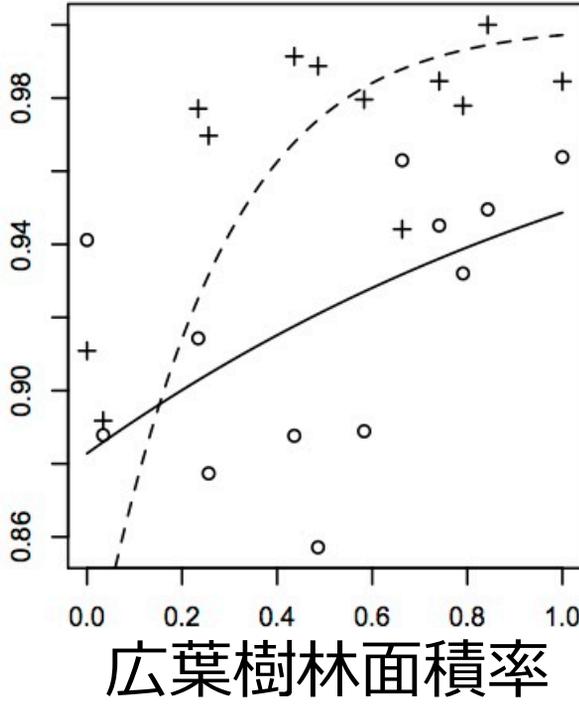


日本の森林面積の4割を針葉樹人工林が占めています。将来の木材需要の低下により、その半分以上が木材生産に不要になるかもしれません。林業地域には広葉樹天然林が混在し、森林の公益的機能を果たすことができます。生物多様性の保全もそのひとつです。茨城県北部をモデル地域に、広葉樹天然林と針葉樹人工林の生物多様性と花粉媒介機能を比較したところ、天然林の適切な配置が重要であることがわかりました。

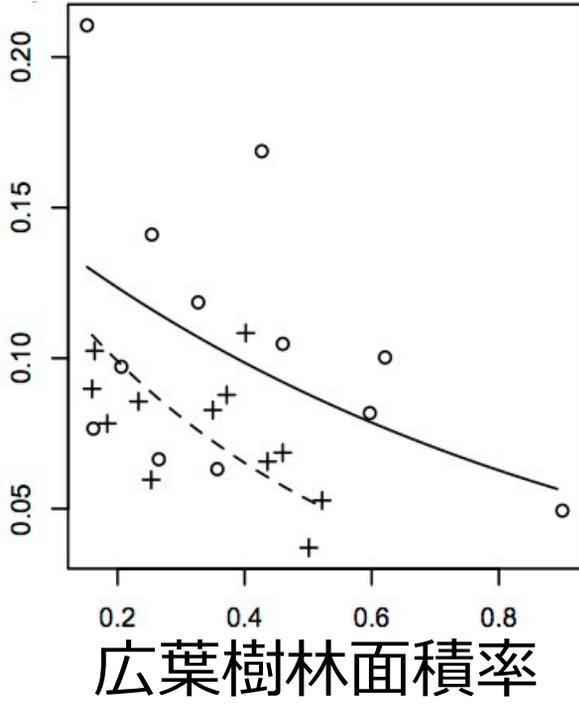
講師 永光輝義（森林遺伝研究領域）

広葉樹林は林業地域の生物多様性を補う

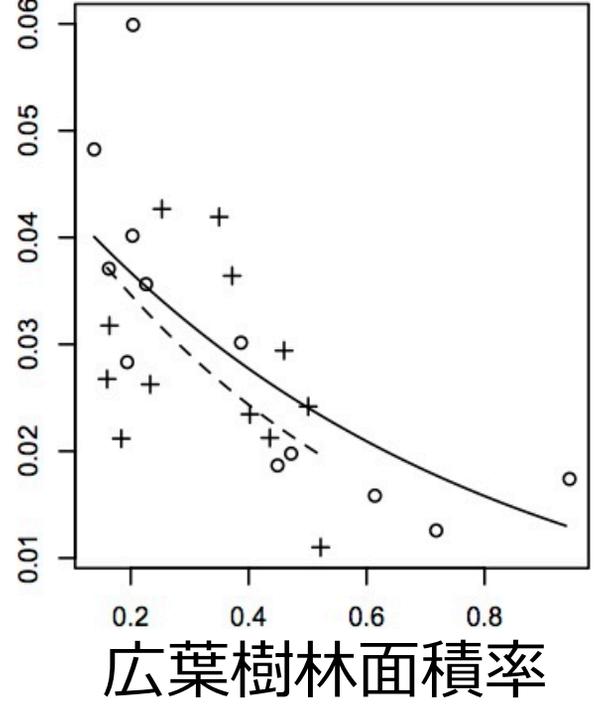
種子充実率



父親の一致率(父親数の逆数)



両親の血縁度(近親交配率)



広葉樹林面積が増えると、サクラの種子が充実し、近親交配が減り、父親数が増えることがわかりました